

中央防災会議
「東南海・南海地震等に関する専門調査会」
(第 1 2 回)

東南海、南海地震のシナリオ型被害想定

平成 1 5 年 6 月 2 7 日

中央防災会議事務局

冬の5時、東南海地震、南海地震同時発生の場合の被災シナリオ

特徴的なシーン別の被害の様相と課題

想定ケース		地区特性及び特徴的な被害の様相	想定される支障事象
1. 津波被害	(1) 紀伊半島・四国の海岸付近で避難が困難とされる地区	<ul style="list-style-type: none"> 震度6強以上の強い揺れと5mから場所により10mを超える津波被害の重なり 地震発生後数分で津波が到達 背後が急傾斜地に囲まれた過疎地で、高齢化が進行 	津波到達までの時間が圧倒的に短く、特に就寝中の夜間発生の場合には、多くの住民が避難する間もなく津波が到達して被災 救助部隊等による避難誘導は全く間に合わない 揺れに伴う家屋倒壊で、自力脱出困難な被災者が多数発生するため、津波到達まである程度時間がある地区でも避難が困難 家屋、電柱等の損壊による避難路の閉塞により避難が困難 避難路が急斜面かつ無舗装等により、避難が困難。特に高齢者の逃げ遅れが発生 急傾斜崩壊、津波による浮遊物の路上散乱により周囲からのアクセス道路が寸断され孤立化
	(2) 紀伊半島・四国の海岸付近の市街地	<ul style="list-style-type: none"> 震度6強以上の強い揺れと5m～場所により10mを超える津波被害の重なり 地震発生後数分で津波が到達 平野部で周囲に津波避難に適する十分な高台が無い。 	～ は上記と同様 津波避難に適した十分な高台が無く、避難が遅れるか、避難しても高さが不十分で被災 津波避難優先で、十分な初期消火活動が行われず、同時多発火災による延焼被害が拡大
	(3) 東海地方沿岸部	<ul style="list-style-type: none"> 震度6強以上の強い揺れと2～5m程の津波被害の重なり 地震発生後十数分～数十分で津波が到達 多くの海水浴場に多数の海水浴客 海岸沿いの道路を通行中の多量の車両が存在 平野部で周囲に津波避難に適する十分な高台が無い 名古屋港は液状化しやすい軟弱地盤で広大な0メートル地帯が広がる 伊勢湾臨海部に高圧ガス、危険物施設等が集積 	～ 、 ～ は上記と同様 港湾内の多数の船舶が安全な場所に移動する前に被災 引き波時の停泊中の大型船舶の座礁 ウォーターフロントの観光客、つり客、海水浴客、運転中のドライバーに津波予警報が伝達されない、避難路、避難場所がわからない等により避難の遅れ 液状化により堤防等が沈下し、0メートル地帯での浸水被害が拡大 石油コンビナート施設による油の流出、危険物の流出による二次災害の発生 港湾労働者等が港湾に船舶の確認等のため参集して津波被害が拡大
	(4) 大阪湾地域	<ul style="list-style-type: none"> 震度5強程度の中程度の揺れと2～3m程の津波高 震源から遠く、津波到達までの時間は1時間以上 海岸沿いの道路を通行中の多量の車両が存在 平野部で周囲に津波避難に適する十分な高台が無い 大阪港は液状化しやすい軟弱地盤で広大な0メートル地帯が広がる 堺、高石沿岸臨海部に高圧ガス、危険物施設等が集積 	～ は上記と同様(浸水域内の地下街の水没危険性がある) 津波到達まで時間的な猶予があるため、津波予警報情報を勘案しながら、適切な避難誘導等の応急活動措置がとれる 淀川の水門の閉鎖に時間がかかり閉鎖できなかった場合には、津波の河川遡上による浸水被害が拡大する
	(5) 四国、中国の瀬戸内海沿岸部	<ul style="list-style-type: none"> 震度5強程度の中程度の揺れと1～2m程の津波高 震源から遠く、津波到達までの時間は2時間程度 養殖産業が盛ん 	は上記と同様 津波予警報情報を勘案しながら、養殖筏を安全な場所に退避する等の対策が可能
2. 同時多発火災(紀伊半島・四国、東海地方の木造密集市街地)	<ul style="list-style-type: none"> 震度6強以上の強い揺れ 老朽化した木造密集市街地が広範囲に連担 狭隘な市街地内道路の存在 	地元の消防力では対応しきれない同時多発火災の発生 火災通報機能の寸断、高所カメラ情報の寸断等による火災覚知の遅れ 倒壊した家屋に閉じこめられて避難が困難な被災者が多数発生 家屋倒壊、電柱の転倒により市街地内の道路が閉塞し、消防車の通行に支障 消火栓等の損傷による消火用水の確保が困難	
3. 物資輸送支障(東海、四国・紀伊半島の市街地を中心として)	<ul style="list-style-type: none"> 震度6強以上の強い揺れ 広域にわたるライフライン被害 多数の滞在型避難者発生 	数日後に備蓄物資が不足 情報混乱により、緊急物資の適時・的確な輸送に支障 被災地内道路の渋滞により物資輸送の遅れ	
4. 救助、救急医療活動支障(東海、四国・紀伊半島の市街地を中心として)	<ul style="list-style-type: none"> 震度6強以上の強い揺れ 木造密集市街地を中心とした多数の要救助者、要医療救急者発生 	対応しきれない多数の要救助箇所の発生 診療所、病院の建物、ライフライン機能の停止による処置能力低下 道路渋滞による緊急搬送活動の遅れ 病院、救護所の対応力を上回る負傷者の殺到	

冬の5時、東南海地震、南海地震同時発生の場合の被災シナリオ

1. 津波による被災ケース

(1) ケース1：紀伊半島・四国の海岸付近で津波避難が困難と判断される地区

・震度6強以上の強い揺れ。発災後数分から十数分で津波到達。津波高は5mから場所により10mを超える。背後に急傾斜地が迫る漁村で避難が困難な環境。高齢化が進行。

		直後	数分～十数分後	数十分後	1～2時間後	6時間後	12時間後	24時間後	3日後	1週間後
地震・津波事象		・震度6強以上の強い揺れ	・第一波到達	・繰り返し津波到達		・津波は徐々に沈静化				
被害の状況		・木造家屋中心に多数の全壊被害 ・急傾斜崩壊による家屋全壊 ・家屋等の倒壊、急傾斜崩壊で道路閉塞 ・孤立化による救助困難な地区発生 ・同時多発火災発生	・津波防災施設の越流 ・家屋浸水 ・初期消火活動がほとんど行われず火災延焼	・路上、港湾に瓦礫等が散乱して通行支障 ・火災延焼の拡大				・延焼は継続	・徐々に自然鎮火	
被災者の行動及び行動支障		・家屋倒壊により多数の自力脱出困難な被災者が発生 ・多くが就寝中で自発的な避難準備が遅れる(避難開始まで10分)	・数分後に津波が到達する地区では避難開始前に津波により被災 ・住民相互による要救助者の救出を行うが間に合わず被災 ・避難を開始した人も、家屋倒壊、急傾斜崩壊等による道路閉塞による逃げ遅れ ・避難所までの道が急斜面で高齢者等が逃げ遅れ ・高齢者や身体障害者を中心に車による避難	・避難所、被災を逃れた地区に被災者が孤立化						
応急活動及び活動支障		・地震の認知	・参集開始	・救助部隊が出動するが陸路は道路寸断により通行支障 ・津波の発生状況を勘案しながら道路啓開活動開始 ・ヘリによる救助活動開始 ・陸路寸断による消火活動支障	・被災地にヘリ到着。救助・医療活動開始するが能率が上がらず				・陸路からの救助・医療活動本格化	・救命活動から生活維持活動にシフト
広域応援活動及び活動支障		・気象庁震度情報伝達	・津波警報発令 ・緊急参集チームの参集開始	・自動的に緊急救助班等の出動		・被災地の情報が十分に入らない ・現地災害対策本部に集結、漸次活動開始 ・道路啓開活動が本格化 ・津波発生状況を勘案しながら海上ルート確保 ・ヘリによる救助・医療活動中心			・陸路、海路からの救助・医療活動本格化	
対策	予防	・家屋の耐震化・不燃化 ・土砂災害防止対策 ・津波防災施設の強化 ・津波避難に関する意識啓発 ・初期消火対策	・津波避難標識等の設置 ・津波避難路の整備(急斜面に手すり等の設置、避難路の舗装・拡幅、バリアフリー整備) ・適切な場所での津波避難場所の指定・認知	・地域消防力の強化 ・孤立化防止対策(道路法面の強化、ルート多重化、道路拡幅等) ・ヘリポートの適正配置		・地震・津波に強い港湾整備(港湾防災拠点整備)				
	応急	・自主防災力の強化 ・ナウキャストによる津波警報の迅速化	・津波警報の迅速化 ・津波警報システムの耐震対策 ・車による避難ルールの検討	・応援要請がない段階の広域応援出動ルール ・ヘリによる輸送体制の整備 ・官民共同による道路啓開体制の整備		・情報連絡体制の整備 ・津波による路上散乱物除去体制の整備 ・海上ルート確保体制の整備				

冬の5時、東南海地震、南海地震同時発生の場合の被災シナリオ

(2)ケース2：紀伊半島・四国の海岸付近の市街地

・震度6強以上の強い揺れ。発災後数分から十数分で津波到達。津波高は5mから場所により10mを超える。平地で周囲に高台がない。

		直後	数分～十数分後	数十分後	1～2時間後	6時間後	12時間後	24時間後	3日後	1週間後
地震・津波事象		・震度6強以上の強い揺れ	・第一波到達	・繰り返し津波到達		・津波は徐々に沈静化				
被害の状況		・木造家屋中心に多数の全壊被害 ・家屋等の倒壊で道路閉塞 ・同時多発火災発生	・津波防災施設の越流 ・家屋浸水 ・初期消火活動がほとんど行われず火災延焼	・路上、港湾に瓦礫等が散乱して通行支障 ・火災延焼の拡大	・消火が困難な規模に延焼			・延焼は継続	・徐々に自然鎮火	
被災者の行動及び行動支障		・家屋倒壊により多数の自力脱出困難な被災者が発生 ・多くが就寝中で自発的な避難準備が遅れる(避難開始まで10分)	・数分後に津波が到達する地区では避難開始前に津波により被災 ・住民相互による要救助者の救出を行うが間に合わず被災 ・避難を開始した人も、家屋倒壊等による道路閉塞による逃げ遅れ ・周囲に十分な高台がなく避難が遅れる							
応急活動及び活動支障		・地震の認知	・参集開始	・救助部隊が出動するが陸路は道路寸断により通行支障 ・津波の発生状況を勘案しながら道路啓開活動開始 ・ヘリによる救助活動開始 ・陸路寸断による消火活動支障	・被災地にヘリ到着。救助・医療活動開始するが能率が上がらず				・陸路からの救助・医療活動本格化	・救命活動から生活維持活動にシフト
広域応援活動及び活動支障		・気象庁震度情報伝達	・津波警報発令 ・緊急参集チームの参集開始	・自動的に緊急救助班等の出動		・被災地の情報が十分に入らない ・現地災害対策本部に集結、漸次活動開始 ・道路啓開活動が本格化 ・津波発生状況を勘案しながら海上ルート確保 ・ヘリによる救助・医療活動中心			・陸路、海路からの救助・医療活動本格化	
対策	予防	・家屋の耐震化・不燃化 ・津波防災施設の強化 ・津波避難に関する意識啓発 ・初期消火対策	・津波避難標識等の設置 ・津波避難路の整備(避難路の舗装・拡幅、バリアフリー整備) ・津波避難場所の整備(耐震性を強化した避難ビル、人工の高台整備等)	・地域消防力の強化 ・ヘリポートの適正配置		・地震・津波に強い港湾整備(港湾防災拠点整備)				
	応急	・自主防災力の強化 ・ナウキャストによる津波警報の迅速化	・津波警報の迅速化 ・津波警報システムの耐震対策	・応援要請がない段階の広域応援出動ルール ・ヘリによる輸送体制の整備 ・官民共同による道路啓開体制の整備		・情報連絡体制の整備 ・津波による路上散乱物除去体制の整備 ・海上ルート確保体制の整備				

冬の5時、東南海地震、南海地震同時発生の場合の被災シナリオ

(3)ケース3：東海地方沿岸部

- ・震度6強以上の強い揺れ。発災後10分から数十分で津波到達。津波高さ2から5m前後。周囲に高台が少ない広大な平野。遠浅で多数の海水浴場

	直後	数分～十数分後	数十分後	1～2時間後	6時間後	12時間後	24時間後	3日後	1週間後
地震・津波事象	・震度6強以上の強い揺れ	・10分～数十分後に第一波到達	・繰り返し津波到達		・津波は徐々に沈静化				
被害の状況	・木造家屋中心に多数の全壊被害 ・家屋等の倒壊で避難道路閉塞 ・同時多発火災発生 ・港湾部の津波堤防が液状化により沈下等の被災	・津波防災施設の越流 ・家屋浸水 ・初期消火活動がほとんど行われず火災延焼 ・沿岸部の石油コンビナートの浸水被害で、場合によりオイル流出、危険物浮遊	・路上、港湾に瓦礫等が散乱して通行支障 ・火災延焼の拡大	・消火が困難な規模に延焼			・延焼は継続	・徐々に自然鎮火	
被災者の行動及び行動支障	・家屋倒壊により多数の自力脱出困難な被災者が発生 ・多くが就寝中で自発的な避難準備が遅れる(避難開始まで10分)	・地区により避難開始前に津波により被災 ・住民相互による要救助者の救出を行うが間に合わず被災 ・避難を開始した人も、家屋倒壊や電柱等の倒れ込みによる道路閉塞で逃げ遅れ ・付近に高台がなく、適切な避難場所、避難ルートがわからない住民が多数発生 ・周囲の被災状況を勘案して高齢者や身体障害者等を中心とする車による避難 ・海水浴客への津波警報伝達の遅れ ・車で避難する海水浴客による道路渋滞 ・ドライバーへの津波予警報の伝達遅れ	・避難意識が十分に高められていれば20～30分程度でほぼ全員が避難完了(津波到達が30分より遅い地区について)						
応急活動及び活動支障	・地震の認知	・参集開始	・救助部隊が出動 ・ヘリ、車による救助						・救命活動から生活維持活動にシフト
広域応援活動及び活動支障	・気象庁震度情報伝達	・津波警報発令 ・緊急参集チームの参集開始	・自動的に緊急救助班等の出動		・被災地の情報が十分に入らない ・現地災害対策本部に集結、漸次活動開始 ・道路啓開活動が本格化 ・津波発生状況を勘案しながら海上ルート確保 ・ヘリによる救助・医療活動中心			・陸路、海路からの救助・医療活動本格化	
対策	予防	・家屋の耐震化・不燃化 ・土砂災害防止対策 ・津波防災施設の強化 ・津波避難に関する意識啓発 ・初期消火対策	・海水浴客等の来街者の津波防災教育 ・津波避難標識等の設置 ・津波避難路の整備(避難路の舗装・拡幅、バリアフリー整備) ・津波避難場所の整備(津波避難タワー、耐震性を強化した避難ビル、人工の高台整備等) ・津波観測機器や水門等の新設・改良を含む遠隔操作化に必要な機器の設置等を行った津波防災ステーションの整備 ・危険物の浮遊防止措置	・地域消防力の強化 ・ヘリポートの適正配置	・地震・津波に強い港湾整備(港湾防災拠点整備)				
	応急	・自主防災力の強化	・津波警報の迅速化 ・津波警報システムの耐震対策 ・車による避難ルールの検討 ・観光客、ドライバー等への津波予警報の迅速・確実な伝達体制の確立	・応援要請がない段階の広域応援出動ルール ・ヘリによる輸送体制の整備 ・官民共同による道路啓開体制の整備	・情報連絡体制の整備 ・津波による路上散乱物除去体制の整備 ・海上ルート確保体制の整備				

冬の5時、東南海地震、南海地震同時発生の場合の被災シナリオ

(4)ケース4：大阪湾地域

・震度5強程度で比較的弱い揺れ。津波到達までには1時間程度の余裕。津波高さ2～3m。ゼロメートル地帯を含む高台の無い平地。港湾内には多量の船舶等が停泊・航行中。

	直後	数分～十数分後	数十分後	1～2時間後	6時間後	12時間後	24時間後	3日後	1週間後
地震・津波事象	・震度5強程度のやや弱い揺れ			・津波第一波到達 ・繰り返し津波到達	・津波は徐々に沈静化				
被害の状況	・特に目立った建物被害は発生しない ・港湾付近で一部液状化被害が発生			・津波防災施設の越流 ・海岸付近の家屋浸水 ・水門の閉鎖が間に合わず地下街等浸水域拡大	路上、港湾に瓦礫等が散乱して通行支障				
被災者の行動及び行動支障	・地震の認知	・津波警報発令に伴い住民の自発的な避難開始 ・周囲の被災状況を勘案して高齢者や身体障害者等を中心とする車による避難 ・港湾内船舶が安全な場所に移動開始	・避難意識が十分に高められていれば20～30分程度でほぼ全員が避難完了 ・付近に高台がなく、適切な避難場所、避難ルートがわからない住民が多数発生 ・確認等のため漁港、港湾へかけつける船主等が発生	・地下街や不適切な避難行動をとった住民が被災 ・漁港、港湾に集まった港湾労働者等が被災 ・適切な場所に移動できなかった船舶の被災 ・停泊中の大型船舶が引き波時に座礁	・ゼロメートル地帯への浸水と水門閉鎖時の大雨が重なった場合の河川氾濫 ・浸水した内水の排除に長時間要するため、避難生活が長期化				
応急活動及び活動支障	・地震の認知	・参集開始 ・漸次避難誘導開始 ・津波到達予測情報を勘案した水門閉鎖、船舶のつなぎ止め等の適切な処置の実施	・津波緊急対応を切り上げ、活動要員の避難も開始		・津波の発生状況を勘案しながら道路・海路啓開活動開始 ・海上ルートの確保開始				・救命活動から生活維持活動にシフト
広域応援活動及び活動支障	・気象庁震度情報伝達	・津波警報発令 ・緊急参集チームの参集開始	・自動的に緊急救助班等の出動		・現地災害対策本部に集結、漸次活動開始 ・道路啓開活動が本格化 ・津波発生状況を勘案しながら海上ルート確保				
対策	予防	・津波防災施設の整備 ・津波避難に関する意識啓発	・津波観測機器や水門等の新設・改良を含む遠隔操作化に必要な機器の設置等を行った津波防災ステーションの整備	・津波被害に対する正しい知識の普及 ・住民、港湾内船舶の避難場所やルートの検討 ・津波避難路の整備(避難路の舗装・拡幅、バリアフリー整備) ・津波避難場所の整備(耐震性を強化した避難ビル、人工の高台整備等) ・地下街の浸水防止対策 ・引き波対策	・内水排除機能の強化 ・地震・津波に強い港湾整備(港湾防災拠点整備)				
	応急	・自主防災力の強化	・津波避難標識等の設置 ・津波警報の迅速化 ・車による避難ルールの検討	・避難誘導體制の整備 ・津波到達時間を踏まえた応急活動体制整備 ・ビルの地下や地下街への浸水防止活動	・津波による路上散乱物除去体制の整備 ・海上ルート確保体制の整備				

冬の5時、東南海地震、南海地震同時発生の場合の被災シナリオ

(5)ケース5：四国、中国の瀬戸内海沿岸部

・震度5強程度で比較的弱い揺れ。津波到達までには2時間程度の余裕。津波高さ1～2m。多数の漁港、養殖筏の存在。

		直後	数分～十数分後	数十分後	1～2時間後	6時間後	12時間後	24時間後	3日後	1週間後
地震・津波事象		・震度5強程度のやや弱い揺れ			・津波第一波到達 ・繰り返し津波到達	・津波は徐々に沈静化				
被害の状況		・特に目立った建物被害は発生しない			・津波防災施設の越流 ・海岸付近の家屋浸水 ・養殖筏等の被災	路上、港湾に瓦礫等が散乱して通行支障				
被災者の行動及び行動支障		・地震の認知	・津波警報発令に伴い住民の自発的な避難開始 ・周囲の被災状況を勘案して高齢者や身体障害者等を中心とする車による避難 ・港湾内船舶が安全な場所に移動開始	・避難意識が十分に高められていれば20～30分程度でほぼ全員が避難完了 ・確認等のため漁港、港湾へかけつける船主等が発生	・漁港、港湾に集まった港湾労働者等が被災 ・適切な場所に移動できなかった船舶の被災					
応急活動及び活動支障		・地震の認知	・参集開始 ・漸次避難誘導開始 ・津波到達予測情報を勘案した水門閉鎖、船舶のつなぎ止め、養殖筏の退避等の適切な処置の実施	・津波緊急対応を切り上げ、活動要員の避難も開始		・津波の発生状況を勘案しながら道路・海路啓開活動開始 ・海上ルート確保開始				・救命活動から生活維持活動にシフト
広域応援活動及び活動支障		・気象庁震度情報伝達	・津波警報発令 ・緊急参集チームの参集開始	・自動的に緊急救助班等の出動		・現地災害対策本部に集結、漸次活動開始 ・道路啓開活動が本格化 ・津波発生状況を勘案しながら海上ルート確保				
対策	予防	・津波防災施設の整備 ・津波避難に関する意識啓発		・津波被害に対する正しい知識の普及 ・住民、港湾内船舶の避難場所やルートの検討 ・津波避難路の整備(避難路の舗装・拡幅、バリアフリー整備) ・津波避難場所の整備 ・漁業の津波安全対策		・地震・津波に強い港湾整備(港湾防災拠点整備)				
	応急	・自主防災力の強化	・津波避難標識等の設置 ・津波警報の迅速化 ・車による避難ルールの検討	・避難誘導體制の整備 ・養殖筏等の津波回避措置 ・津波到達時間を踏まえた応急活動体制整備		・津波による路上散乱物除去体制の整備 ・海上ルート確保体制の整備				

冬の5時、東南海地震、南海地震同時発生の場合の被災シナリオ

2. 同時多発火災による被災ケース（紀伊半島・四国、及び東海地方の木造密集市街地）

・震度6強以上の強い揺れ。大規模に集積する老朽木造密集市街地で同時多発火災が発生。

		直後	数分～十数分後	数十分後	1～2時間後	6時間後	12時間後	24時間後	3日後	1週間後
地震事象		・震度6強以上の強い揺れ								
被害の状況		・同時多発出火 ・木造家屋中心に多数の全壊被害 ・家屋等の倒壊で道路閉塞	・火災延焼	・延焼拡大	・延焼拡大	・ガス漏れ、通電出火	・新たな出火は激減	・徐々に自然鎮火		
被災者の行動及び行動支障		・家屋倒壊により多数の自力脱出困難な被災者が発生 ・住民による出火防止(火元の整理)	・地域住民による要救助者の救出活動 ・住民による初期消火	・延焼範囲の拡大により広域避難開始 ・地域住民による要救助者の救助が間に合わない場合が発生 ・車による避難者による道路渋滞発生	・広域避難場所の避難者が急増					
応急活動及び活動支障		・高所見張り/非常参集	・火災覚知活動開始 ・火災通報不能等により火災の覚知が遅れる(炎上出火の1/4(阪神淡路の実績))	・道路閉塞、道路渋滞により現場到着の遅れ ・消火栓が損傷しており、消火用水の確保困難	・延焼規模の拡大により消火困難化 ・延焼拡大阻止活動	・通電火災、不審火防止		・徐々に自然鎮火		
広域応援活動及び活動支障			・参集開始	・応援要請が無い場合でも広域応援体制整備後漸次出動		・徐々に現地到着。延焼拡大防災活動中心 ・(上空からのヘリによる消火?)				
対策	予防	・家屋耐震化、不燃化 ・既往密集市街地の再開発等 ・オープンスペースの確保 ・火災予防に関する防災教育	・火災情報伝達基盤の整備 ・初期消火資機材の設置	・耐震性貯水槽の整備		・通電火災防止対策				
	応急		・初期消火体制の整備	・要救助者の救助体制強化						

冬の5時、東南海地震、南海地震同時発生の場合の被災シナリオ

3. 緊急輸送路の寸断による物資輸送支障ケース（東海、四国・紀伊半島の市街地を中心として）

・家屋被害やライフラインの機能支障に伴い多くの避難者発生。土砂災害、揺れによる道路基盤被災により陸上ルートが寸断。

		直後	数分～十数分後	数十分後	1～2時間後	6時間後	12時間後	24時間後	3日後	1週間後
地震事象		・震度5強～6強以上の強い揺れ								
被害の状況		・木造家屋中心に多数の全壊被害 ・急傾斜崩壊による家屋全壊 ・家屋等の倒壊、橋梁・効果の被害、急傾斜崩壊で道路寸断 ・ライフラインの機能停止		・点検のため高速道路は通行止め					・緊急自動車のみ通行可能（橋梁被害部を除く）	
被災者の行動及び行動支障		・危険及び生活の不便を感じ、自宅から自主的な緊急避難開始	・最寄りの避難所や広場に一時避難	・車による避難者が多数発生し道路渋滞					・ライフライン停止の長期化で避難者増加 ・徐々に自宅や避難所の備蓄物資が不足	
応急活動及び活動支障		・地震の認知	・参集開始	・情報寸断による状況把握の遅れ ・避難所開設 ・被災者の受け入れ ・道路被害点検 ・道路啓開、交通規制 ・広域防災拠点開設						
広域応援活動及び活動支障			・参集開始	・応援要請が無い場合も広域応援物資を漸次輸送開始			・現地後方の広域防災拠点に物資集積			・被災地内の状況を勘案して順次物資輸送
対策	予防	・家屋の耐震性強化 ・ライフラインのリダンダンシー強化 ・家庭内備蓄		・避難所の指定と耐震強化 ・避難所での物資備蓄			・広域防災拠点の適正配置と機能整備			
	応急			・情報共有化基盤の整備 ・道路啓開体制の整備 ・応援要請がない段階の広域応援物資輸送ルール			・被災地内の混乱を引き起こさない緊急物資の後方輸送体制の整備			

冬の5時、東南海地震、南海地震同時発生の場合の被災シナリオ

4. 多数の負傷者の発生による救助、救急医療活動支障ケース（東海、四国・紀伊半島の市街地を中心として）

・家屋の全壊、同時多発火災延焼、土砂災害により、非常に多くの要救助者、負傷者が発生。耐震性の低い各地の診療所も多くが機能不能。

		直後	数分～十数分後	数十分後	1～2時間後	6時間後	12時間後	24時間後	3日後	1週間後
地震事象		・震度6強以上の強い揺れ								
被害の状況		・木造家屋中心に多数の全壊被害 ・急傾斜崩壊による家屋全壊 ・同時多発火災発生 ・家屋等の倒壊、橋梁・効果の被害、急傾斜崩壊で道路寸断 ・通信情報機能の寸断								
被災者の行動及び行動支障			・要救助者の自力脱出 ・近隣住民による救助	・殺到する病院にアンパランスが生じる						
応急活動及び活動支障			・参集開始	・情報寸断により状況の把握が困難 ・漸次救助開始するが圧倒的に人数不足 ・医療機関に負傷者が多数搬送され、圧倒的な医療スタッフの不足	・ヘリによる重傷患者の搬送	・救護所開設により医療救護班の受け入れ開始	・救助、医療救護活動の本格化	・生存救出率の低下 ・クラッシュ症候群、人工透析患者の搬送		
広域応援活動及び活動支障			・参集開始	・要請がない段階でも漸次広域救助隊の出動開始 ・同様に医療救護班出動 ・医薬品等の後方搬送開始		・被災地現場に救助隊、医療救護班が到着				
対策	予防	・家屋の耐震性強化	・自主防災力の強化	・医療機関の耐震性強化 ・バックアップ電源確保等のリダンダンシー対策	・病院付近でのヘリポート整備					
	応急			・救助、救急医療体制の整備 ・要請がない段階での広域応援活動ルールの明確化	・ヘリ搬送体制の強化	・後方医療体制の整備				